

行政案補足資料（評価方法）

- 1 施策や事業の評価による進行管理について
- 2 第6次小田原市総合計画評価における課題と成果の振り返りについて
- 3 計画体系について
- 4 目標（KPI）と取組の関係性について
- 5 評価方法について

1 施策や事業の評価による進行管理について

- 第7次小田原市総合計画第1期実行計画においても第6次小田原市総合計画同様、PDCAサイクルに基づく進行管理を導入する。
- 第6次小田原市総合計画評価での課題と成果を振り返り、今後の評価方法の事務局案を示す。

○行政案P14（抜粋）

2 施策や事業の評価による進行管理

第1期実行計画では、施策や事業の着実な実施と継続的な改善を図るため、PDCAサイクルに基づいた進行管理を導入していきます。市が実施する事業を毎年度評価することで事業の有効性や妥当性等を点検し、計画の進捗を管理します。

計画の策定（Plan）を起点として、初年度における事業推進（Do）を通じて各事業を具体化し、以降の年度においては、実施状況の把握や課題の抽出を行う進捗確認（Check）を行います。進捗確認の結果を踏まえ、事業の改善・見直しや新たな政策立案（スクラップアンドビルド）を検討するなど、翌年度の予算編成等に連動する改善（Action）を通じて、計画全体の質的向上を図ります。

このように、年度ごとの成果や状況を確認しつつ、国や社会情勢の変化などに合わせて施策の方向性を見直していくなど、柔軟かつ戦略的にまちづくりを進めていきます。

また、計画期間内における「まちづくりの目標」の進捗を測ることを目的にそれぞれの目標で掲げている「まちの姿」ごとの重要業績目標達成指標（KGI）を次のとおり設定します。

2 第6次小田原市総合計画評価における課題と成果の振り返りについて

- 令和7年度第1回審議会（7月1日）にて、第6次小田原市総合計画評価での課題と成果を整理し、評価方法に関する今後の事務局の考えを提示した。
- 「評価方法」「目標（KPI）と取組の関係性」「計画体系」について、その方法をお示しする。

○令和7年度第1回審議会_資料5（抜粋）

3 第6次小田原市総合計画評価における課題と成果

- 第6次総合計画では、総合計画の評価を初めて実施した。
- 実際に評価を実施したことで得られた課題と成果を次のとおりまとめた。

課題	成果
□ 評価の統一性の確保 □ 評価実施による全庁的な事務量の増加 □ 目標（KPI）と取組の因果関係の整理 □ 市民へのわかりやすい計画体系	□ 事業所管課が自らの事業を計画全体の中で振り返ることで、まちづくりの一端を担っていることを再認識できた □ 施策の進捗を測るにあたり、目標（KPI）と取組の関係性をより一層考える機会となった □ 施策の必要性を改めて考え、課題と今後の方向性を再認識できた

次期計画での評価方法に関する事務局の考え方

- <評価方法>
 - ◆ 評価方法の簡素化を検討するなど、これまでの3年間における課題や成果を踏まえた評価方法とする
- <目標（KPI）と取組の関係性>
 - ◆ 目標を設定するにあたっては、計画策定の段階から取組との因果関係や適切性などを考慮して設定する
- <計画体系>
 - ◆ 将来都市像の実現に繋がり、市民に対してわかりやすい計画体系とする

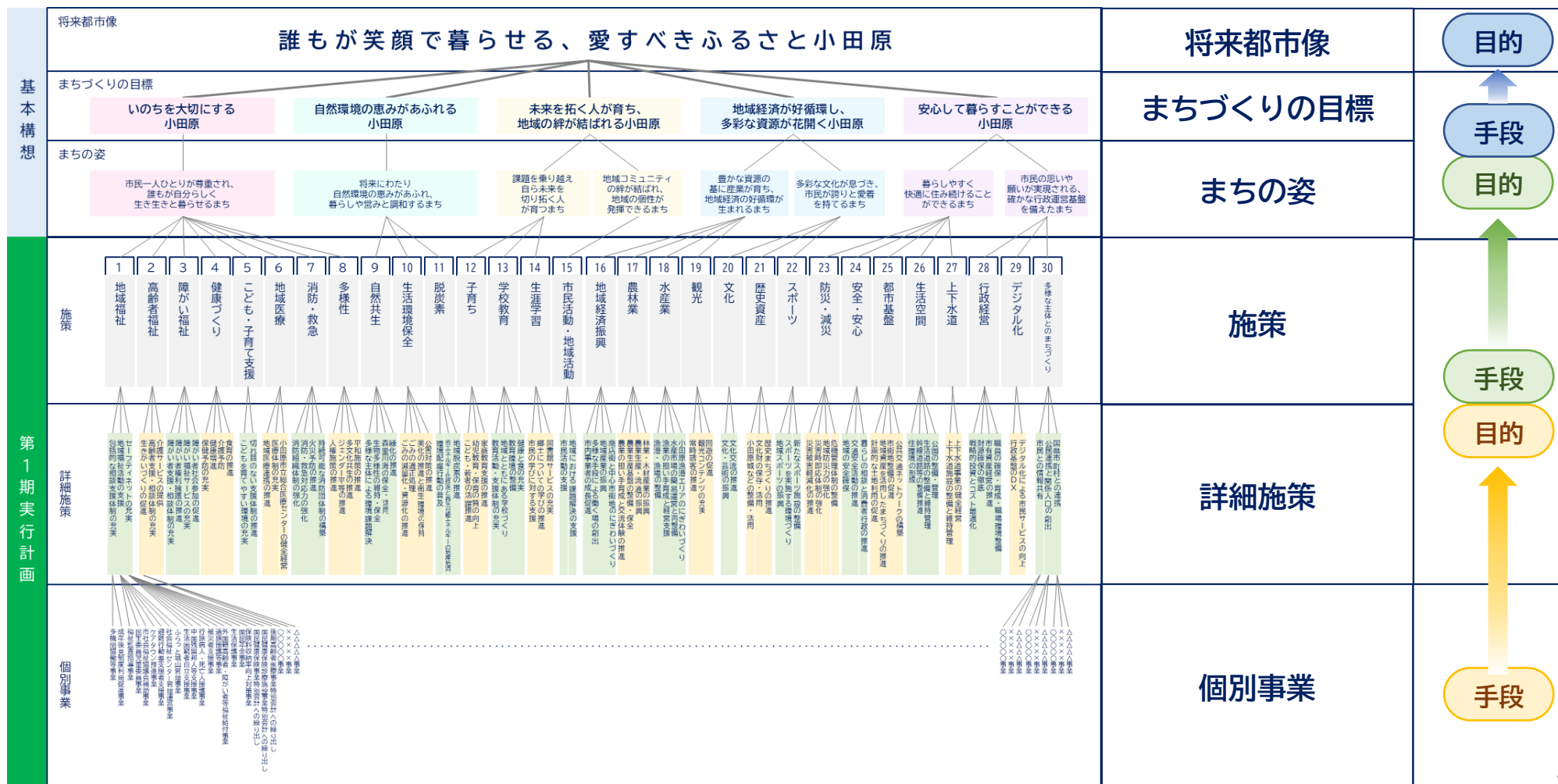
➢ 上記の「事務局の考え方」に対する、総合計画審議会の意見を求める

➢ 審議会からの意見を踏まえ、第7次総合計画第1期実行計画の指標設定や評価方法を検討し、第3回会議で諮問予定の「第7次小田原市総合計画第1期実行計画行政案」において、その方法をお示しする

3 計画体系について

- 「市民に対してわかりやすい計画体系」として、全ての分野をツリー構造で体系的に整理した。
- ツリー構造は目的と手段の関係で繋がり、個別事業の展開により将来都市像の実現を目指す。

○第7次第1期実行計画体系図



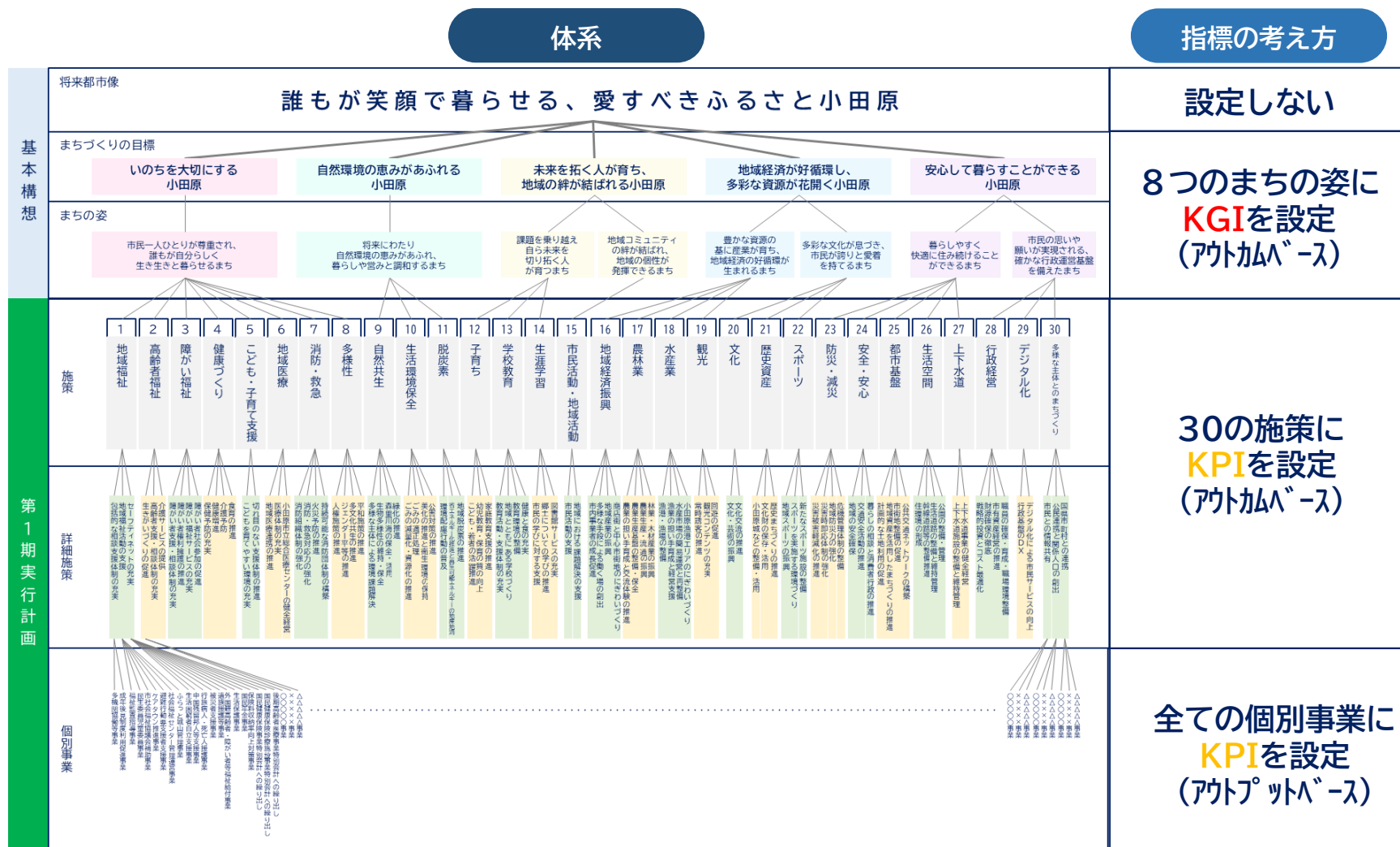
4 目標（KPI）と取組の関係性について

- 第1期実行計画における目標（指標設定）の考え方を次のとおり整理する。

	体系	指標設定の考え方
基本構想	将来都市像	・将来都市像は市民と共有する「目指すべきまちのイメージ」である。 ・その実現のため、まちづくりの目標を設定したため将来都市像に指標は設定しない。
	まちづくりの5目標 （8つのまちの姿）	・計画期間内における「まちづくりの目標」の進捗を測るため指標（KGI）を設定する。 ・8つのまちの姿ごとに、市民意識調査などにおける「主観的指標」と、健康寿命や合計特殊出生率などの「客観的指標」の両面から設定する。 ・まちづくりの目標の方向性を市民と共有する目的から、KGIと目標の方向性（増減や維持）を示し、目標値は設定しない。 ※「KGI：Key Goal Indicator（重要目標達成指標）」 ・・・最終的に達成すべき目標（ゴール）を定量的に示す指標のこと
第1期実行計画	施策 ・ 詳細施策	・30の施策ごとに指標（KPI）を複数設定する。 ・指標は個別事業の効果によるアウトカム（成果）ベースとする。 ・各施策の指標（KPI）は設定にあたっては、まちづくりの目標（KGI）への寄与・貢献を意識する。
	個別事業	・全ての個別事業ごとに指標（KPI）を設定する。 ・指標は各個別事業の行政のアウトプット（活動量）ベースとする。 ・個別事業の活動の効果により、施策・詳細施策の指標への寄与・貢献を意識する。 ※「KPI：Key Performance Indicator（重要業績評価指標）」 ・・・最終目標（KGI）を達成するための過程や進捗を定量的に測る指標のこと

4 目標（KPI）と取組の関係性について

- 体系と指標をツリー構造により連動させる。
- 個別事業のKPIが施策・詳細施策のKPIに寄与し、まちづくりの目標のKGIに寄与し、将来都市像の実現に繋げていく。

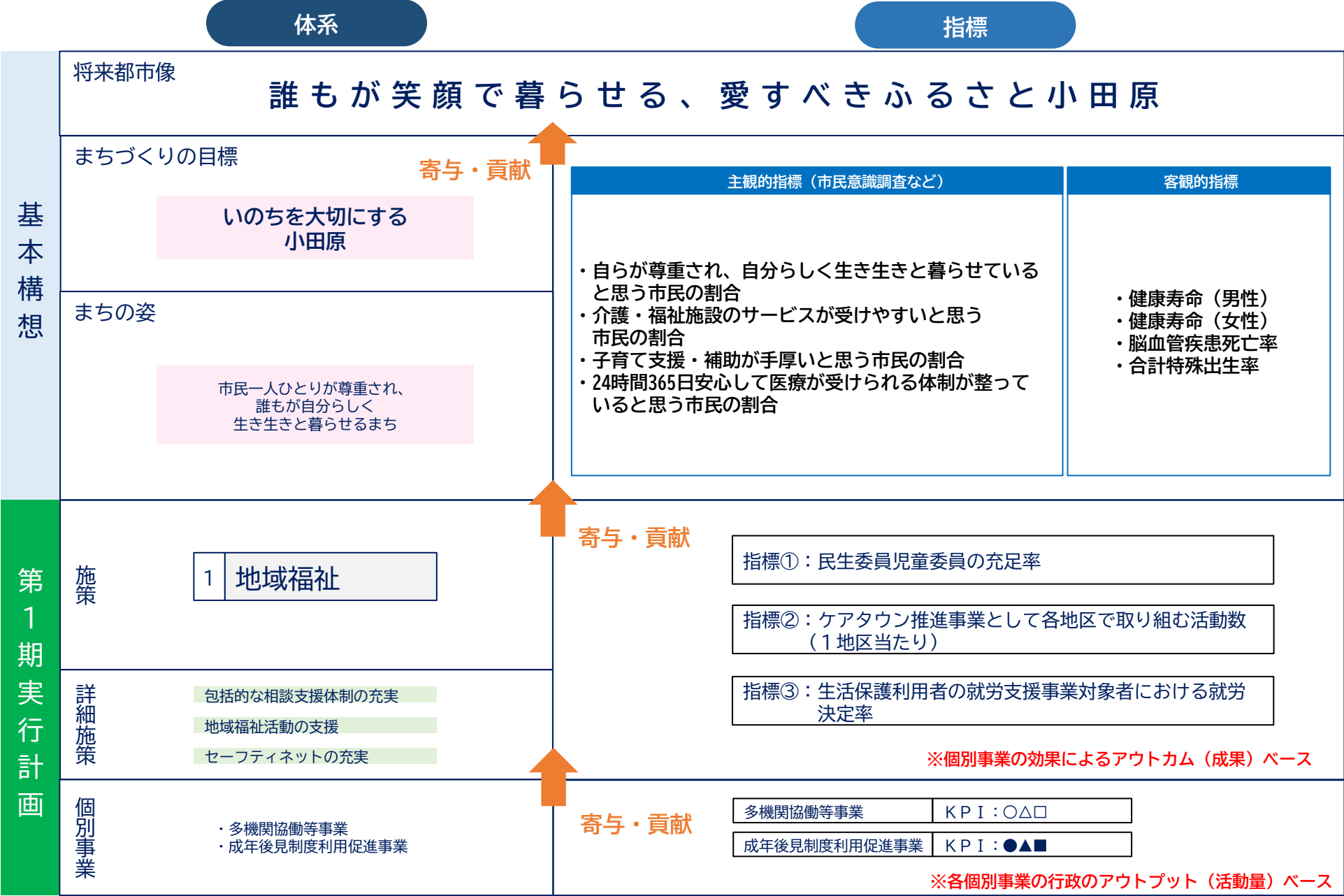


寄与・貢献

寄与・貢献

寄与・貢献

■指標設定イメージ（まちづくりの目標：「いのちを大切にする小田原」を例に）



5 評価方法について

- 第6次総合計画評価での成果と課題を踏まえ、今後の評価方法の事務局案を提示する。
- 主に、外部評価として総合計画審議会の今後の関わり方について、審議会の意向を確認したい。

【事務局案】

<共通事項>

- 第6次総合計画評価同様、庁内での内部評価と総合計画審議会による外部評価を実施する。
- 内部評価は、施策における成果目標（アウトカムKPI）の達成状況等を確認するため毎年度実施し、例年実施している個別事業の事務事業評価（アウトプットKPIの確認など）と同時実施を検討する。



<外部評価案①> 毎年度実施

- 6次総合計画評価同様、総合計画審議会による外部評価を毎年度実施する。

<外部評価案②> 計画策定年度のみ実施

- 庁内及び審議会の負担等を考慮し、評価作業の簡素化を図るため、計画策定年度のみ実施する。（次回は令和10年度に実施予定）

<外部評価案③> 計画策定年度＋書面開催等

- 計画策定年度（R10）に加え、内部評価結果を総合計画審議会委員あてに送付し、毎年度書面開催等により意見聴取を実施する。

外部評価案のスケジュールイメージ

